

学校だより  
第54号

# 報徳

R4.3.3  
校長 松下 公博

## 努力して努力してやりぬいた先には

平野 歩夢選手金メダルに輝く

3月になりました。いよいよ今年度もラストスパートの時期に入りました。子ども達からは、進級への期待の高まりが伝わってきます。気持ちを落ち着けて無事に今年度を終えてほしいと思います。最後の全校集会で次のような話をしました。

3月になりました。いよいよ今の学年も残すところ二十日余りにな

りました。上の学年や中学校に上がる準備はできましたか。やり残したことが無いように、残りの毎日を大切に頑張りましょう。さて、2月に中国の北京で冬季オリンピックがありました。今月4日からはパラリンピックも始まります。冬季オリンピックは見ましたか。先生は、毎日楽しみにして見ました。日本勢は金メダル3つ

銀メダル6つ、銅メダル9つと、これまでで一番たくさんメダルをとりました。誰もやっていない技への挑戦、ゴール前での転倒、思いもかけない失格など、たくさんドラマがありました。4年間必死で頑張ってきた選手たちの姿はどれも心を打つものでした。中でも私が一番心に残ったのはスノーボードハーフパイプで金メダル

をとった平野歩夢選手です。平野選手は、前回のピョンチンオリンピック、その前のソチオリンピックで銀メダルをとっています。今度こそは金メダルをとってほしいと必死に応援しました。この種目は3回滑って一番高い得点を競うのですが、平野選手は2回目にこれまで誰もやっていない難しい技に挑戦して成功したにもかかわらず2位の判定となりました。私は「この追い詰められた状況で今以上の滑りは絶対にできない。金メダルは無理だ」とがっかりしました。ところが3回目、平野選手は2回目と全く同じ技を更に完璧にきめました。私は信じられない思いでした。弟の海祝選手は平野選手

のことを「みんなが見ていないところでも、ひたすら努力していたのが兄ちゃんだったので」と言っています。あの3回目の滑りはものすごい努力の結果だったので、努力して努力してやりぬいた先には何があっても揺らがない自信と悔いのない結果が待っていることを教えられました。試合後のインタビューで「自分が納得する滑りが、みんなに少しでも届いたんじゃないかな。何か刺激になりました。何か刺激になれば、それ以上はいいです。」と聞いています。私は、自分の思いをはるかに超えたアスリートの強さに感動し、大切なことを教えてもらったことに感謝の思いをもってこの言葉を聞きました。

6年生にとっては小学校生活最後の1ヶ月です。今は卒業制作や卒業演奏の練習に励んでいます。昨年の6年生に続き、コロナ禍の中、最上級生として過ごす日々でした。本来であれば、委員会活動や縦割り班活動で最上級生としての行動を求められ、それらを通して大きく成長するはずの一年ですが、多くの機会を奪われてしまいました。それにも関わらず、6年生は、できる一つ一つのことに全力で取り組みました。何事にも素直に真面目に取り組む姿は大変立派でした。池田小のためにありますがとう。小学校で培った力を中学校でも発揮してください。